

Weekly-Report



C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「注目のECB理事会では、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）のもとでの債券購入を緩やかに縮小する方針を打ち出し、出口戦略に一步舵を切り始めた」との思惑でユーロ買い・ドル売りとなったが、

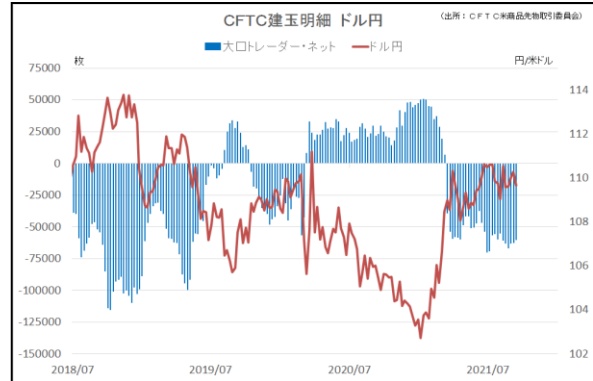
同時にラガルドECB総裁は、「債券購入ペースの減速は、資産購入ペース縮小とは別の物」と慎重姿勢も示した事で、ドル円は、110円を挟んで方向感が定まらず、膠着感が強まっている。

米経済指標は、財政刺激策の期限切れもあって、弱い内容が相次いでおり、デルタ株の感染拡大の影響がどの程度残るのか、来年にかけてインフレが鎮静化して行くのか否か、先行き不透明感が高まっている状況。

14日に発表される8月の米消費者物価指数が注目。パウエルFRB議長が主張しているように「物価上昇は一時的なもの」と認識できるような結果となるかが注目される。110円を挟んだレンジ相場が継続見通し」としたが、先週は、注目の8月の米消費者物価指数（CPI）で、エネルギー・食品を除くコア指数は前年同月比4.0%上昇と7月（4.3%上昇）から縮小し、市場予想（4.2%上昇）も下回った事を受けて、米長期金利低下と共にドル売りの展開となった9月の米FOMC会合ではテーパリング開始が見送られるとのコンセンサスが広がったが、16日発表の8月の米小売売上高は前月比、コア前月比ともに市場予想を上回り、9月のフィラデルフィア連銀景況指数も予想を上回り改善したことから、主要通貨に対してドル買いが強まった。結局ドル円は、一時110円を回復したものの、上値も重く、レンジ相場が継続している。

9日の欧州中央銀行（ECB）理事会ではパンデミック緊急購入プログラム（PEPP）による債券購入のペースはこれまでの2四半期と比べて緩やかにするとした。ラガルド総裁が債券購入ペースの減速はテーパリングではない強調したこともあり、ユーロ買いの動きも限定的。

中国・香港株市場は中国恒大地産集団の債務問題への懸念が重石となった。



1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

 日産証券

C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、続伸。8月の米小売売上高などこのところ市場予想を上回る指標の発表が目立つ中、米長期金利が上昇し、日米の金利差拡大を意識した円売り・ドル買いが入った。21～22日のFOMCを控え、年内のテーパリング（量的金融緩和縮小）開始を改めて示唆するとの見方もあり、ポジション調整のドル買いも一因。



ユーロはドル続落。8月下旬以来のユーロ安・ドル高水準を付けた。

CFTC建玉明細（9/14 現在）は、60,295枚の売り越し。前週（62,325枚の売り越し）から縮小。

【今週見通し・戦略】

21～22日に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）が注目。FRBは雇用の最大化と物価の安定が最大の責務となるが、米雇用統計で、非農業部門雇用者数が前月比23.5万人増にとどまり、市場予想（73.3万人増）を大きく下回ったことで、米雇用情勢への警戒感が広がっている。一方、最近の米経済指標は強弱混在。今回のFOMCでは、テーパリング決定はなく、「11月FOMCで決定して、12月に開始」「12月FOMCで決定して、1月に開始」のいずれかのパターンとなるというのが市場コンセンサス。

9月FOMCでは、メンバーによる政策金利見通し（ドットチャート）や、経済成長率見通し、物価上昇率見通しなどが公表される。ドットチャートに関しては、前回6月時点で、「2023年中に2回の利上げ」とした想定からどう変化があるかが注目。今回から2024年の見通しが公表されるため、テーパリング後の利上げ見通しなどがどうなるのかが注目される。

今回、テーパリング決定はなくとも、ドットチャートで利上げ時期の見通しの前倒しや、物価上昇率の上方修正などがあれば、米長期金利上昇・ドル高につながる可能性。

一方、中国恒大地産集団の債務問題や、米国の債務上限問題などの不確定要因もあり、慎重姿勢を示せば、ドルの上値は重くなる。いずれにしろ、今年春先から、110円を挟んだ狭いレンジ相場放れ待ちが継続。

2
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

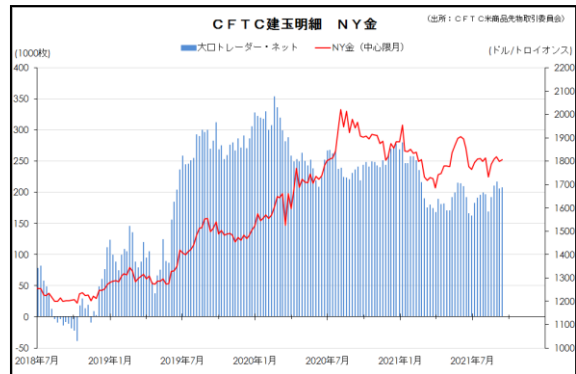
金標準先物(9/17 清算値:6,271円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「週末段階では、実体は雲の下（弱気の時代）に位置するが、来週からは雲の位置が切り下がり、18000ドル回復なら雲の上（強気の時代）、下落しても半値押し維持なら雲の中（中立の時代）と日柄経過と共に、弱気感（調整安）は、徐々に後退していく。

～中略）。

NY金（12月限）は、9月3日高値を起点に調整局面入りだが、米債務上限問題に加えて、ドイツ選挙・日本の選挙・FOMCなど重要イベントが今月後半に予定されていることを考慮すると、安値売り込みは避けたいと考える。中国の不動産大手、中国恒大集団の2兆円を超える米ドル債がリスク要因として浮上している点も注意」としたが、先週のNY金（12月限）は、米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化が支援要因になる場面も見られたが、ニューヨーク連銀製造業業況指数や米小売売上高が予想外に好調な内容になると、戻りを売られて急落した。中国の不動産開発大手の過剰債務問題に対する懸念などからリスク回避のドル高に振れると戻りを売られた。中国恒大集団の子会社、中国恒大地産集団は、債券の格下げを受け、上海上場債券の取引を1日停止することを申請した。



8月の米消費者物価指数（CPI）は前月比0.3%上昇と7月の0.5%上昇から鈍化した。前年同月比5.3%上昇、7月は5.4%上昇。

一方、9月のニューヨーク連銀製造業業況指数は34.3と8月の18.3から上昇。事前予想（18.0）を上回った。また8月の米小売売上高は前月比0.7%増加し、事前予想（0.8%減）から予想外に増加した。9月の米フィラデルフィア地区連銀業況指数も30.7と前月の19.4から大きく上昇した。事前予想は18.8。

学校の新学期開始を受け、オンライン販売が増加した。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大を受けた景気減速懸念が出ていたが、好調な米経済指標を受けて懸念が後退した。

Weekly-Report



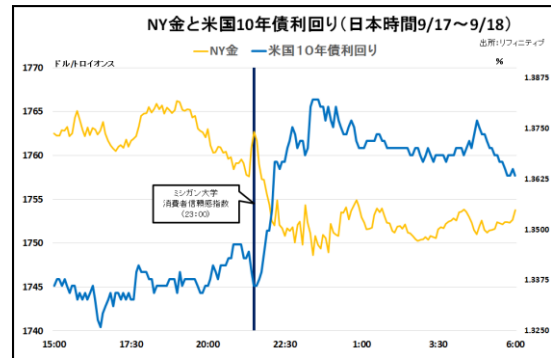
C X 週間展望 (9月20日~)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(9/17 清算値:6,271円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(12月限)は、3日続落。米長期金利が上昇し、株安からリスク回避のドル高に転じたことを受けて戻りを売られた。米ミシガン大消費者信頼感指数速報値が事前予想を下回り、景気の先行き懸念が残ることもリスク回避を促す要因になった。時間外取引の安値を割り込むと、1747.1ドルまで下落した。



9月の米ミシガン大消費者信頼感指数速報値は71.0となり、2011年12月以来の低水準だった8月の70.3から小幅に上昇した。市場予想は72.0。インフレ率が高止まりする中で、消費者が引き続き景気の先行きに厳しい見方をしていることが示された。米小売売上高など今週発表された経済指標は好調な内容となったが、世界経済の減速や中国企業の規制強化への懸念に対する懸念が残っている。

米ホワイトハウスは、連邦債務の法的上限が議会で引き上げられなければ、米経済はリセッション(景気後退)に陥り、失業悪化や大規模な雇用喪失につながる恐れがあると警鐘を鳴らした。

CFTC建玉明細(9/14 現在)は、207,460枚の買い越し。前週(206,039枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略(1)】

NY金(12月限)は、8月の米小売売上高が市場予想に反して増加。9月の米フィラデルフィア連銀の製造業景況指数も市場予想を上回って改善したことから、主要通貨に対してドル買いが強まったことを嫌気して急落となった。

9月に入り、弱気の雇用統計や、事前予想を下回ったCPIなどから、次回FOMCでのテーパリング示唆思惑が後退していたが、その後に発表された米マクロ経済指標の強気が相次いだことで、市場の思惑以上にFRBがインフレを懸念するケースも意識されてきた感触。FOMCでは、労働市場の回復が遅れていることから量的緩和の縮小(テーパリング)決定は見送られるとみられているが、年内の開始が示唆される可能性もある。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望 (9月20日~)

調査課 菊川 弘之

金標準先物(9/17 清算値:6,271円)(3)

【今週見通し・戦略(2)】

一目均衡表では、先週の雲の下(弱気の時代)から雲の中(中立の時代)へ移行している。雲の下限や基準線と重なる1750ドル水準を維持できるか否かが焦点。

変化が起こりやすい基準数値・対等数値の日柄は、17日・23日・28日。満月は21日。雲のねじれは9月下旬。日本市場は、20日(月:敬老の日)、23日(木:秋分の日)と、飛び石で休場。中国も中秋節の休場や、10月には国慶節の長期休場が控える。



中国第2位の巨大不動産企業である恒大集団の過剰債務や資金繰り問題と、リーマン・ショックと比較する動きが出始めている。ゴールドマン・サックスは15日のレポートで、2兆元(約3050億ドル)近い債務を抱えた恒大集団が直面している危機が、同国の不動産セクターに幅広く波及するリスクがあると警告。

お祝い事である国慶節の時期を避け、中秋節休場を利用した破綻発表や破綻処理には注意したい。今月、天安門に暗示的なブラックスワンが舞い降りたが、チャイナリスクには要注意。最終的には中国政府が解決に乗り出すことで、金融危機には発展しないとの見方が多いが、製造業に余剰人員を提供するために荒療治に踏み切るのではないかと観測もある。

休場絡みで薄商いの中、ハードランディング処理報道が流れれば、一時的に金(GOLD)も含めたリスク資産売りが出るとは考えられるが、その場合は、米の金融緩和姿勢が長期化することで、リバウンドも早いだろう。世界的な金融危機となるなら、それこそ「安全資産」としての金買いが始まるだろう。いずれにしろ、リスク資産売りに追従した金の安値は、中長期的な買い場と見る。

また、FOMC絡みで金が続落した場合も、バーナンキショック~テーパリング開始時と同じように、「知ったら終い」となるのではないかと変化の起こりやすい時間帯に示現する金の突っ込み安値を売り込むのは避けたい。

Weekly-Report

C X 週間展望 (9月20日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

白金先物(9/17 清算値:3,278円)

【前週レビュー】

先週レポートで「心理的節目1000ドル割れも底打ち感はない。2020年3月安値～2021年2月高値までの上昇に対する半値押しは943.3ドル。61.8%押しは861.3ドル。一目均衡表(週足)の雲は切り上がっており、1000ドル台前半では、雲の下(弱気の時代)に落ち込む時間帯に向かう。再度、米出口戦略が高まりを見せた場合は、価格帯別出来高の厚い61.8%押しも要想定。値頃ではなく、チャート上の底打ちパターン待ち」としたが、先週のNY白金(10月限)は、ニューヨーク連銀製造業業況指数や米小売売上高が予想外に好調な内容になり、ドル高に振れた事や、金軟調を受けて売り優勢となった。ただし、好調な米経済指標を受けて、株価の押し目を買われたことは下支え要因となり、金と比べると下値は限定的だった。



週末のNY白金(10月限)は、反発。安寄りしたのち、好調な米小売売上高などをを受けて景気減速懸念が後退し、売られ過ぎ感から買い戻されて949.1ドルまで上昇した。その後は、株安からリスク回避の動きとなったことで上げ一服となった。世界経済の減速や中国企業の規制強化への懸念に対する懸念は残っており、上値が抑えられた。

CFTC建玉明細(9/14現在)は、1067枚の売り越し。前週(6,349枚の買い越し)から途転。

【今週見通し・戦略】

金と比べて下げ渋りを見せたが、明確な底打ち感はない。米株が崩れると900ドル割れもあり得る。値頃感無用。買いはチャート上の底打ち確認を待ってから。

Weekly-Report


日産証券

C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(9/17 清算値:202.4円)

【先週レビュー】

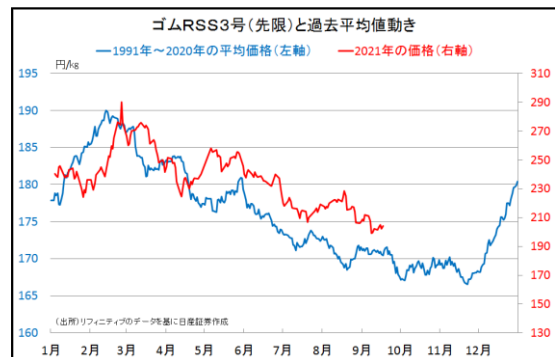
先週レポートで《～前略》。中国が商品高抑制化に動いている中、大きく突っ込んだ後の自律反発はあっても、本格反騰にはもうしばらくの日柄が必要か？季節的には10月以降は底固めの時間帯に移行する。鞘の変化と共に底練りを見極めたい》としたが、先週のRSS3号は、



197.4円（9/10 安値）を起点に自律反発となったが、中国政府が、商品価格の抑制に動くなど、積極的に買いにくい状況下、中国の小売上高や、鋳工業生産指数が事前予想を下回る弱気の結果となり、上値の重い展開となった。

【今週見通し・戦略】

中国汽車工業協会（CAAM）が発表した8月の国内自動車販売台数は前年同期比17.8%減の179.9万台。世界的な半導体不足を背景に、4カ月連続で前年同月を下回った。1～8月の累計販売台数は、前年同期比13.7%増。なお、CAAMは、2021年の中国自動車販売台数は、当初予想の前年比6.5%増を下回る見込みとの見解を示している。



欧州自動車工業協会（ACEA）によると、8月の欧州連合（EU26）の新車（乗用車）登録台数は前年同月比19.1%減の62万2993台。7月は同23.2%減の82万3949台となり、2カ月連続で減少。1～8月は前年同期比11.2%増の680万7706台。

英IHSマークイットは、半導体不足やサプライチェーン（供給網）を巡る問題により、2021年の世界の小型車生産台数見通しを500万台引き下げた。

季節的には徐々に底練りの時間帯へ向かうが、株価の大きめの調整が入ると、心理的節目200円割れの可能性は残る。FOMCを受けての米株価動向や、中国恒大集団の過剰債務や資金繰り問題の行方にも注意したい。

Weekly-Report



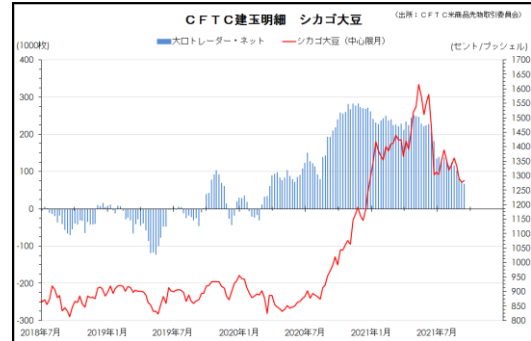
C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(9/17:清算値:64,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで《ハーベストプレッシャーの時間帯で、12ドル水準での底固め》としたが、先週のシカゴ大豆（11月限）は、9月10日安値を起点に自律反発も、米農務省需給報告での生産予想（43億7400万Bu）を達成する可能性が高まっており、ハーベストプレッシャーに上値が抑えられた。



週末のシカゴ大豆（11月限）は、急落。米農務省（USDA）がデイリーでの中国向けの大口輸出成約を発表したものの、大豆を積載したミシシッピ川などのバージ運航が前週より半減したことを明らかにしたことで、再び米ガルフ（メキシコ湾）積みの輸出懸念が浮上した。また大豆の成熟や初期の収穫が進展していることも圧迫要因。

CFTC建玉明細（9/14 現在）は、65,755枚の買い越し。前週（70,237枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（9月9日までの一週間）】

126万6200トン（事前予想レンジ：100万～160万トン）

【週間作物進捗報告（9月12日までの週）】

落葉率：38%（前週18%、前年35%、平年29%）

「良」以上：57%（前週57% 前年63%）

「劣」以下：14%（前週14% 前年11%）

【今週の見通し・戦略】

6月安値～心理的節目12ドルを試す可能性はあるが、米農務省需給報告で期末在庫率は4.2%に引き上げられたとは言え、需給ひっ迫に変わりはなく、ハリケーン・アイダによる被害が発生したメキシコ湾岸地域では普及作業が進むにつれて輸出量が回復に向かうことが予想される。季節的な下げ圧力を見極めながら、短期は戻り売り、中長期は買い場探し。

Weekly-Report



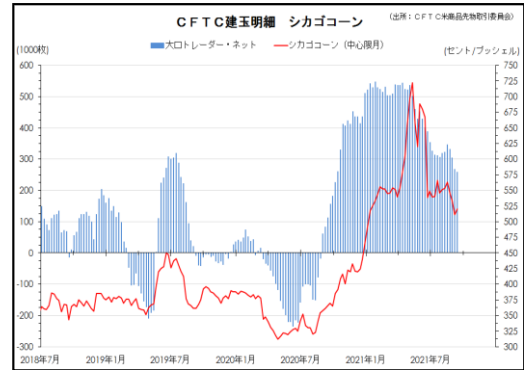
C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(9/17:清算値:34,350円)(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「5月以降、支持線となっている心理的節目5ドル水準を維持できるか否かが焦点。ハーベストプレッシャー（収穫期の売り圧力）が意識される時間帯だが、在庫率は引き上げられたものの10%を割り込んでおり、5ドル割れからは、チャート上の底打ち確認を待って、買い戦略を考えたい」としたが、先週のシカゴは、USDA需給報告を受けてつけた安値（9/10：497.5¢）を起点に、自律反発の展開となった。



週末のシカゴコーン（12月限）は、続落。ミシシッピ川のバージ運航が前週から半減していたことや、アルゼンチンが発表した21/22年度の同国産生産高見通しが直近の米農務省見通しを上回っていたことなどに圧迫された。

CFTC建玉明細（9/14現在）は、258,634枚の買い越し。前週（267,777枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（9月9日までの一週間）】

24万8900トン（事前予想レンジ：40～140万トン）

【週間作物進捗報告（9月12日までの週）】

収穫率： 4%（前週 — 前年 5% 平年 5%）

「良」以上：58%（前週 59% 前年 60%）

「劣」以下：15%（前週 14% 前年 15%）

【今週の見通し・戦略】

季節的には、ハーベストプレッシャー（収穫期の売り圧力）の時期であり、高値圏にある原油価格に調整が入ると追従しそうだが、作柄報告で「良」以上が58%となり、前週から1ポイント（1%）の悪化。今後、作柄の改善がなければ、10月の需給報告予想で生産、イールドの下方修正の可能性も。500¢割れ水準が底値圏として意識される可能性も。

Weekly-Report



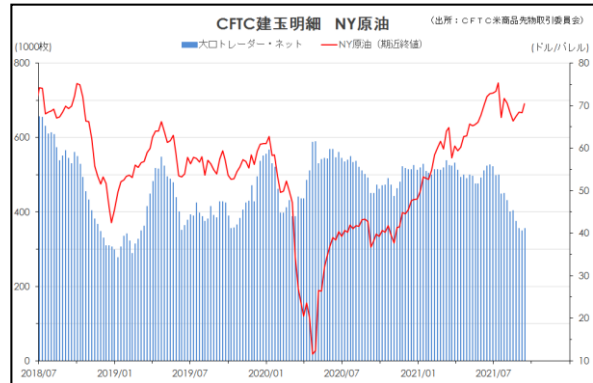
C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「米軍のアフガン撤退以降、中東の地政学リスクはキナ臭さを増しており、ワクチン接種の進展と共に、経済回復の流れに変化はなく、欧米の出口戦略の思惑の高まりと共に需要増加が下値を支える。」



株価の暴落等がなければ、NY原油の200日移動平均線を割り込むような下げは想定し難い。上値は重いものの高値圏での保合いで、冬の暖房油需要が増加してくるのを待つ流れか」としたが、先週のNY原油（10月限）は、ハリケーン「アイダ」による被害から米国の海上油田の生産量が完全に回復していない中、熱帯性暴風雨「ニコラス」が米テキサス州に迫った事で続伸して始まった。

「ニコラス」の米ガルフ（メキシコ湾）沿岸接近で、戻り高値を更新したものの、米気象庁（NWS）が現地14日夜までに勢力を弱めて「熱帯性暴風雨」から「熱帯性低気圧」にカテゴリーを引き下げられる見込みと予報したことや、「ニコラス」の影響で操業を休止していたパイプラインの一部が再開したと伝わり、上値が抑えられた。

中国は戦略石油備蓄の約738万バレルの放出について、24日に入札を実施した。大半は原油価格が崩落した2020年4～5月にかけて購入したものとみられ、平均価格40ドルで、5億4000万ドル程度の利益が見込まれる。

国際エネルギー機関（IEA）月報で、2021年第3四半期の世界石油需要をコロナ禍により前回から日量20万バレル下方修正した。ただ10月には同160万バレル増加して年内も増加傾向が続くとみており、2021年通年では同520万バレル、2022年には同320万バレル増加すると予想した。

石油輸出国機構（OPEC）月報で、2021年10～12月期の需要見通しを従来の日量9982万バレルから同9970万バレルに下方修正した。ただ、第1～3四半期までは上方修正されており、通年の見通しは引き上げられた。来年については楽観的で、2022年の需要見通しは日量9986万バレルから同1億83万バレルまで上方修正された。世界経済が新型コロナウイルスの流行を乗り越えつつ、石油需要の回復が本格化すると期待されている。

Weekly-Report

C X 週間展望 (9月20日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(10月限)は、下落した。ドル高傾向や米株安で弱気のセンチメントが強まるなか、ハリケーン「アイダ」や「ニコラス」の被害を受けた石油施設が操業を徐々に再開しており、需給逼迫観測が和らいだ。



米安全環境局(BSEE)によると、17日現在、米ガルフ(メキシコ湾)の海上油田の原油生産の停止は日量42万2078バレル(全体の約23%)となりは、前日の同51万3838バレル(全体の約28%)から回復しているが、来週中には大半を回復するとの見方が強まっている。

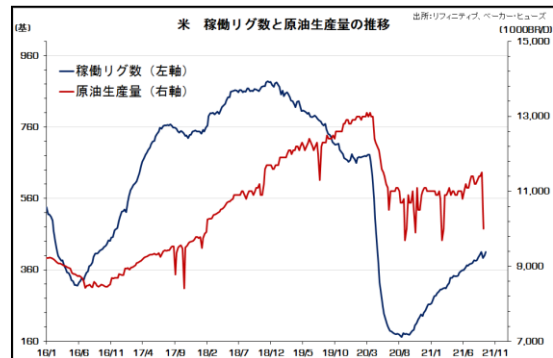
直近の米エネルギー情報局(EIA)の週報によると、原油在庫は4億1744万5000バレルで、ほぼ2年振りの低水準となっている。

CFTC建玉明細(9/14現在)は、355,064枚の買い越し。前週(349,158枚の買い越し)から

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

17日公表した統計によると、同日までの1週間の国内の石油掘削リグ稼働数は、前週比10基増の411基となり、2020年4月以来の高水準となった。

一方、天然ガス掘削リグの稼働数は、前週比1基減の100基。



Weekly-Report



C X 週間展望 (9月20日～)

調査課 菊川 弘之

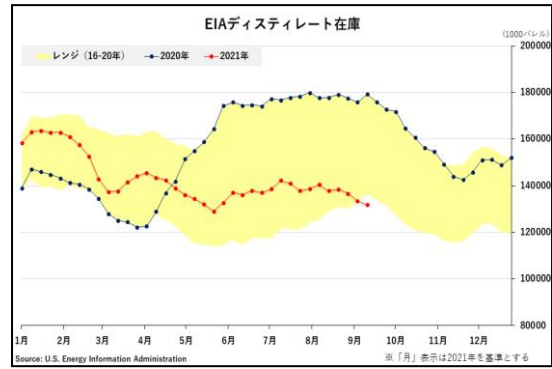
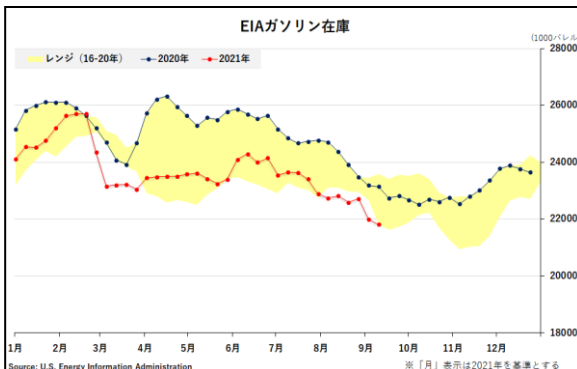
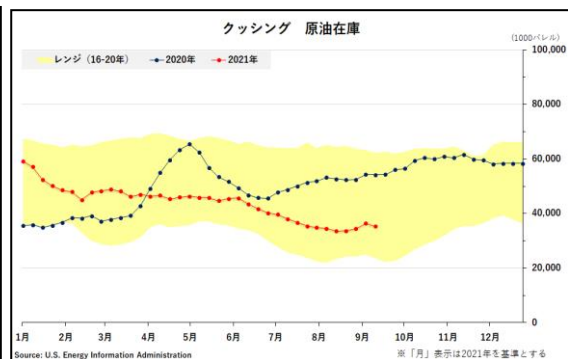
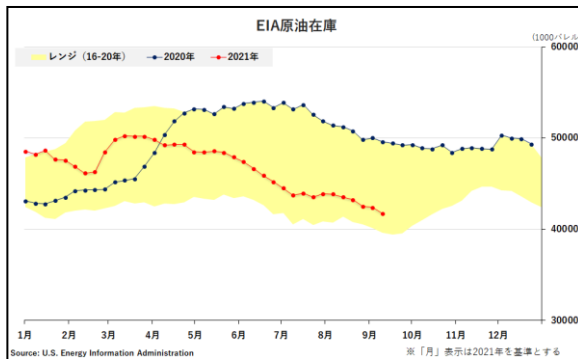
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億1740万バレル
 クッシング 3531万バレル
 ガソリン 2億1810万バレル
 留出油 1億3190万バレル

640万バレル減少
 134万5000バレル増加
 276万1000バレル減少
 288万8000バレル減少



【石油連盟週報】

石油連盟週報(5日～11日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比2.6%減の157万7953キロリットル。灯油在庫は、同5.0%増の224万5910キロリットル。週間原油処理量は、同1.8%減の294万5607キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが4.3%減の70万5336キロリットル。灯油が62.9%減の5万3019キロリットル。

Weekly-Report



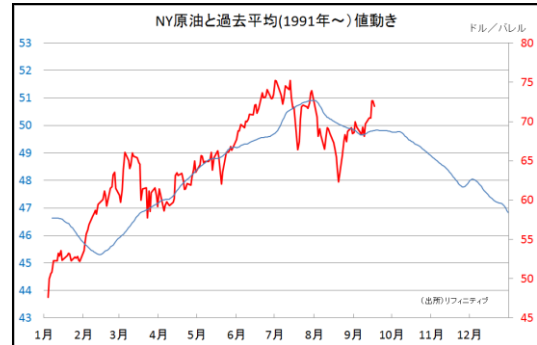
C X 週間展望（9月20日～）

調査課 菊川 弘之

東京原油(4)

【原油相場見通し】

米エネルギー情報局（EIA）週間石油在庫統計で原油在庫が市場予想以上に減少した。ハリケーン「アイダ」によって石油生産施設が被害を受けた後、復旧が遅れていることが背景。熱帯性暴風雨「ニコラス」も復旧作業を停滞させたことから、今週発表分のEIA週報でも影響が残る見通しだが、米ガルフ（メキシコ湾）の海上油田の原油生産停止は、今週中には大半を回復するとの見方が強まっており、在庫減少に対する反応は限定的となる可能性。



米中の戦略備蓄放出もあり、新たなハリケーン発生・被害や、具体的な供給障害を伴う中東の地政学リスクが起きなければ、上値は限定的か？

バイデン米大統領は16日、「ガソリン価格が下落すべき証拠が多くあるにもかかわらず、下落していない」とし、その理由について政権内のチームが調査している。米連邦取引委員会（FTC）のリナ・カーン委員長は、ガソリンの値上がりに関して業界の慣行を徹底調査するとともに、「違法な」合併を厳しく取り締まる意向を示している。政治的な圧力に加え、9月は高止まりしても、10月の月間騰落率は弱気優勢の時間（31年間10勝21敗）。

9月21日上場するCME原油等指数先物（略称：CME原油先物）は、組成項目の各エネルギー先物である・WTI先物（原油）：72%、・RBOB先物（ガソリン）：13%、・ULSD先物（ヒーティングオイル）：15%。の相関が高い上、WTI先物の構成比率が高いことから、WTI先物価格の値動きに準じた動きを採ると予想されます。現物の受け渡しを伴わない指数取引のため、2020年3月に見られた受け渡し事情によるWTI先物のマイナス価格のような異常事態も回避されることも利点の一つ。

Weekly-Report



C X 週間展望 (9月20日～)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (9/20～9/26)】

9月20日(月)	15:00	ドイツ	8月	生産者物価指数 (PPI) (前月比)		
	15:00	ドイツ	8月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	10.4%	
	23:00	米国	9月	NAHB 住宅市場指数	75	75
	休場	日本	---	敬老の日		
	休場	中国	---	中秋節 (～21日)		
9月21日(火)	19:00	英国	9月	CBI 動向 - 受注	18	
	21:30	米国	Q2	経常収支	-195.7 (十億)	-190.0 (十億)
	21:30	米国	8月	建設許可件数	1.630 (百万)	1.600 (百万)
	21:30	米国	8月	住宅着工件数	1.534 (百万)	1.580 (百万)
	納会	米国	---	NY原油2021年10月限納会		
	未定	米国	---	連邦公開市場委員会 (FOMC、～22日)		
	未定	日本	---	日銀金融政策決定会合 (～22日)		
9月22日(水)		日本		大阪取引所、CME原油等指数先物上場		
	23:00	米国	8月	中古住宅販売戸数	5.99 (百万)	5.89 (百万)
	23:00	米国	8月	中古住宅販売増減率	2.0%	
	23:00	ユーロ圏	9月	消費者信頼感指数 速報値	-5.3	
	休場	香港	---	中秋節翌日		
9月23日(木)	未定	ユーロ圏	---	ECB理事会		
	16:30	ドイツ	9月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	62.6	
	16:30	ドイツ	9月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	60.8	
	16:30	ドイツ	9月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	60.0	
	17:00	ユーロ圏	9月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	61.4	
	17:00	ユーロ圏	9月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	59.0	
	17:00	ユーロ圏	9月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	59.0	
	17:30	英国	9月	総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	54.8	
	17:30	英国	9月	製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	60.3	
	17:30	英国	9月	サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.0	
	21:30	米国	9月13日, 週	新規失業保険申請件数		
	21:30	米国	9月6日, 週	継続失業保険受給総数		
	22:45	米国	9月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.4	
	22:45	米国	9月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	61.1	
	22:45	米国	9月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.1	
9月24日(金)	休場	日本	---	秋分の日		
	8:01	英国	9月	GfK 消費者信頼感指数	-8	
	8:30	日本	8月	全国コア消費者物価指数 (CPI) (前年比)	-0.2%	
	8:30	日本	8月	全国消費者物価指数 (CPI) 総合 (前年比)	-0.3%	
	17:00	ドイツ	9月	IFO 業況指数 (新)	99.4	
	17:00	ドイツ	9月	IFO 現況指数 (新)	101.4	
	17:00	ドイツ	9月	IFO 期待指数 (新)	97.5	
	19:00	英国	9月	CBI 小売売上高	60	
	23:00	米国	8月	新築住宅販売戸数	0.708 (百万)	0.720 (百万)
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細		
	納会	日本	---	東京ゴム (RSS3) 2021年9月限納会日		
	納会	日本	---	東京石油製品2021年9月限納会日		
9月25日(土)						
9月26日(日)		ドイツ		ドイツ連邦総選挙		

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

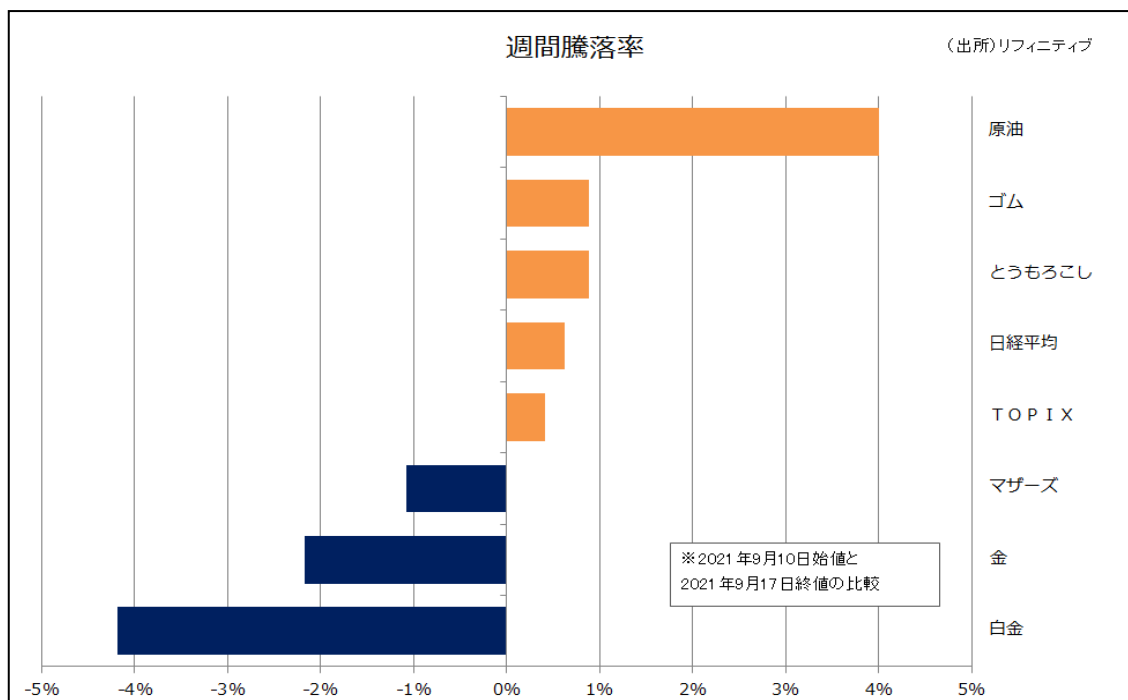
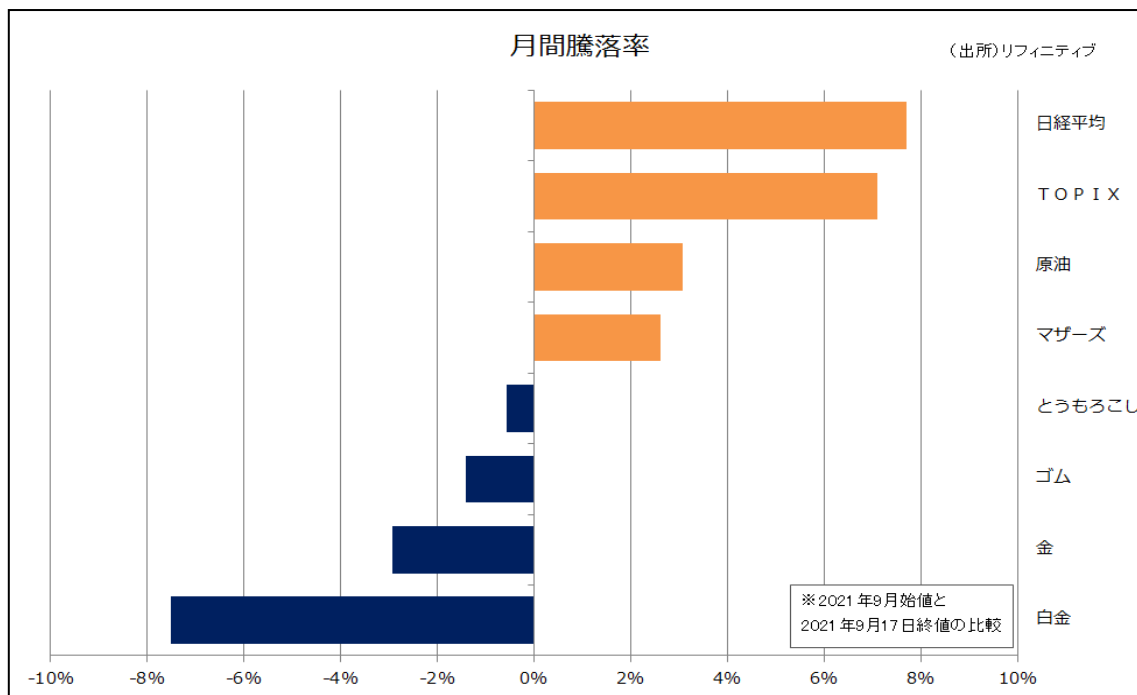
Weekly-Report



C X 週間展望 (9月20日~)

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。